



生駒市立鹿ノ台小学校

鹿小だより



鹿小ホームページ

令和 8年 9月 24日

第 12 号

「どうしたらいいだろう」を乗り越えて

4年生のあるクラスで、代表委員会に持ち寄る「運動会のスローガン案」の話し合いが行われていました。進行役を務めていたのは2人の代表委員です。

はじめに数名の児童が意見を発表しましたが、その後、ぴたりと手が挙がらなくなりました。進行役の2人は思わず担任の先生の方に視線を送ります。

しかし、先生はぐっと堪えて、「大丈夫、大丈夫」と伝えるように静かにうなずきかけました。

感心したのはこの後です。先生の表情を見て、2人は再びクラスの子どもたちの方を向き直り、

「まだ、決まったわけではないので、まだ、意見を言っていない人は言ってください」

「今思いついた言葉でもいいので言ってみてください」

と、自分たちの言葉で発言を促したのです。先生に頼るのではなく、その場の状況を考えて自分たちで言葉を選び、話し合いを前に進めようとしている姿に大きな成長を感じました。

この呼びかけに応えるように、新しく3名が挙手し、最終的に8つのフレーズ案が出揃いました。

——はて、このあと、8つの案をどうやって絞っていくのだろう？

気になって、続きを見守りました。

「8つの中から、いいと思ったものに手を挙げてください。1つ目がいいと思う人…」

と、進めようとしたのですが、どうもみんなの反応が薄い。それを感じて、「あ、もう少し時間を取りますね」と言い直しました。少し待っているうちに何かひらめいたのか、「やっぱり、聞き方を変えます」と告げました。



昔遊びクラブ 福笑い、得意なんです！

「上の4つと下の4つから、それぞれ良いと思うのを1つずつ選んでください」と進め方を変えました。8つのうちから、いきなり1つに絞るのは難しいと考え直したと、後で聞きました。その方法が最善だったかは分かりません。しかし、周りの状況を見てその場で考え、やり方を修正しようとする姿には驚かされました。

残念ながら途中でチャイムが鳴り、その時間内に結論を出すまでには至りませんでした。話し合いは次の時間に持ち越しになりましたが、さらに、うれしい光景が5分休憩の間に見られました。5～6人の子どもたちが代表委員のそばに集まって、出された意見と票数を見ながら、今後の決め方について話し合っていたのです。

信じて任せることで育つ力

先生が主導すれば、もっと効率よく結論にたどり着いたかもしれません。それでも、子どもの力を信じて待ち、委ねることには大きな意味があります。失敗や試行錯誤を繰り返しながら、自分たちで考えて進めていくプロセスそのものが大切な学びなのだと感じました。これまでの生活の中で、信じて任された時間や経験の積み重ねがあったからこそ、育まれた力なのでしょう。自分たちで学校生活をつくって、いこうとする子どもたちの姿を、とても頼もしく感じた時間でした。

授業中に海外旅行?! - 旅行かばんかと思ったら…

「じゃあ、今から先生、旅行に行ってくるね」

一抱えもある大きな木製かばんを右手に提げて教室の扉に向かう1年生の担任の先生。

突然の言葉に、子どもたちは一斉に「えっ!」と驚きの声を上げました。



「ちょっと海外までね」と言いながら黒板の前に戻ってきた先生は、大きな木製かばんを見せます。子どもたちは、大きな木の箱にもうきぎ付けです。

「いったい何が入っているのだろう」

そんな期待に満ちた表情で見守る子どもたち。

先生がかばんを開けると、算数で使う時計の教具が30個余りびっしり行儀よく並んでいました。

先生のちょっとした遊び心が、子どもたちの心を一気に授業に引き込んでいました。そんな先生の演出を見ながら、わたしは、思わず心の中で大笑いしてしまいました。また、その演出に素直に驚き、目を輝かせる1年生の反応がとても愛らしく感じられました。

図書室のマスコット

図書室の入り口に写真のような表示板があり、本の姿をしたマスコットが子どもたちを出迎えてくれます。また、図書室の中に入ると、本棚のあちらこちらに、さまざまな姿をしたマスコットのなかまをたくさん見つけることができます。例え



ば、今月のテーマ本を紹介するコーナーには、月見団子を手にと、ウサギの耳を付けたマスコットがいます。図書室で本を探しながら、いろんな表情をしたマスコットたちを見つけて、子どもたちの楽しみの一つになっています。

「図書だより」でも案内があったように、このマスコットの仲間たちの名前(なかまの総称)を募集したところ、224通の応募がありました。

